

3月末日（当時2歳児クラス）

- ・さくら組（年長児）に豆？（菜の花の種）をとってほしいとお願いしている
- ・そのうち自分でもとるようになる

4月前半

- ・「なのはなのたねだよ」という児と「まめだよ」という児に分かれる
- 菜の花についていつから種になるのか、、、
- ・では、今の緑の色の種で「たね」なのかな、、、 →市販の種を開けてみる →茶色いことがわかり「もう少し待ってよう」ということに
- 2週間くらい経った頃一人の男児が「たねがちゃいろになってる！！」と見せにくる
- ・みんなで菜の花の種取りを行う



5月

- ・ふさから種をとる

これがまた大変な作業、縦に開くことが難しく、コツを掴むまで時間がかかった

徐々に慣れてきて縦に割って種を取り出す

→集めた種をプラスチックの容器に入れて揺らしていると「いいおとがしそう」「かみこっぷにいれるのは？」

「やくるとのいれものもいいよ」「いえでつくったことがある」「まらかすつくりたい」との言葉が→「種が余ったら楽器作りもしたいね」と伝えた

- ・担任が簡易的に紙コップでマラカスを作って音を鳴らしてみると、作りたい！！という皆の言葉があった
- ・菜の花についてみんなで話をしてみる

担任：菜の花はいつ咲くんだろう

子ども：なのはなは、はるのはなだよ

担任：他に春の花は？

子ども：ちゅーりっぷもはるのはな！

担任：これから夏になるけど夏は咲かないのかな

子ども：あついとさかないって

というやりとりで、涼しくなったら種まきをしようということになった

種まきまで保育室に種を保管する

10月6日(木)

・たねを植える

→週明けには芽が出ている、子どもが気づくまで待っていると、登園した子ども、3人目くらいで「はえてる!!!」と子どもの方から報告があった

・種の植え方は同じくしたはずが、発芽の数にだいぶ違いがあった

・子どもたちでどのグループが一番はえているか、量が多いのかを競うように話す

・実は担任の見えていないうちにたくさん種を入れたグループがあり、それがバレてしまい、笑って「バレたー」と

・発芽した芽を、大切そうになでていた

・風で種が吹き飛んだようで、テラスのスノコの間からも発芽、子どもが発見するそこにも水をあげていた

→この発芽は、後に枯れていく、それには気づかずに、数日経ってから、「なくなってる」と子どもが話していた

・「つちがかわいたからみずを」と言う言葉

・水をあげすぎてしまうこともあったが、園庭へでるたびに気にして観察

・2歳児クラスの女兒が菜の花の葉を見たいと、入室を拒んでいると本クラスの女兒が「みたいの?またあしたね」と言って指きりをしたという



11月初め頃

・小さなプランターにびっしりと発芽した葉が10センチ弱くらいになった頃、「きつそう」と女兒から

→「ちょうど(菜園の)やさいがなくなったから、そこにうえるのは?」と

女兒と2人で植え替えをしていると興味のある児が数名加わる

そこに先日の2歳児の女兒が「なにやっているの?」と尋ねてきたので、本クラスの児が「いっしょにやる?」と言って一緒に植え替えを行う

「これでそだつね」と本クラスの女兒が言った



11月中旬

発表会の練習が短時間ではあるがほぼ毎日取り組んでいる日々

・種の残りをそのまま子どもの見える場所に置いていたところ「がっき、つくるんじゃなかった？」と子どもが言う

・「マラカス作るんだったね」と伝え、「せっかく作るなら、何かに使いたいね」と言うと「はっぴょうかいで、みんなでマラカスもってやったらいいとおもう」と

発表会のどの場面で使いたいかを話すと「うたのとき」と話すので、じゃあ、劇の時に使おうかという提案をすると喜ぶ

・菜の花の種だけで、マラカスを作る（残った種の量をみんなで分けると、そんなに量はない）音が小さいので他に何かないと種を探し、取っておいたかぼちゃの種とあさがおの種も入れたいと女兒から提案されて作ってみるとより大きな音がするので種を3種類入れることにした

・マラカス作りを行う→種がより大きい方が音がよく出ること気がついて、大きい種が人気だった

・床に種が落ちると、テラスのすのこの間から目が出たことを思い出して、「テラスのときみたいにはえちゃうから、ひろわなきゃ」という言葉があった

・それでも余った種がある

→どうするかを尋ねると「もったいないからうえたい」と話すので、最初に使用した小さなプランターに種まきをした

・「たくさん種を入れすぎない」と最初にたくさん種を入れすぎた女兒が話す、、、がやはりたくさん入れてしまったプランターはあった（これも、発芽の数が楽しみ）

・プランターの場所についても。どこがいいかな、と話すと「こっちがいい！！」と菜園で一番日当たりが良かったところ（野菜がよく育っていたところ）に持っていく



12月

・小さなプランターは、発芽はしたものの、ある日目が全て刈り取られたような感じに（多分、鳥に食べられた）なっているが、鳥が実際に来ているところは見た児はいなかったので、「なくなっちゃたね」という程度

・大きくなっていく最初に植えた菜の花に園庭へ行くたびに水を上げている



1月

・お正月明け、さらに大きくなっている菜の花、大きさに差があることに気がついているが特になぜかという感じではなかった。



- ・さくら組へのプレゼントの話をした時に「菜の花をあげたい」という話になる
 - ・内緒で、お家の人にもプレゼントしたいという話になった
 - ・1月下旬、菜の花が咲いていることに気が付く。
 - ・散歩先の野草園で花びらのスノードームを見つけると、、、
- 子ども達から「はなびらきれい」「これなのはなでつくりたい」という声が、、、そして「これをさくらさんのプレゼントにしたらいい」との声。クラスみんなの意見が一致する。

2月

- ・R-1 ヨーグルトの空き容器回収の呼びかけを保護者に行い、協力を仰ぐ。
- ・12日（木）に試作品を作る

→材料：洗濯糊・水・ラメ・菜の花

（洗濯糊を見ると、漢字で書いているのにも関わらず「せんたくのりだ！！」と知っている児がいた）

洗濯糊と水の比率は7：3、ラメは、色のついている物もあるので、透明のタイプと2つ作るが、透明の方が花がよく見えるとの声で、色はつけないことに。

菜の花を実際に入れると「わ～～～きれい」と歓声が上がる。

出来上がった試作品が日を重ねると、どんなふうに変化するのかを観察する。（プレゼントとして渡すのに、きれいな透明感を保てるのか、、、などの変化を観察していくことに）

- ・寒い日々が続き、雪が降っても咲き続ける菜の花に、「なのはなってつよいね」と会話が聞こえた。



3月

- ・スノードーム作り

→試作品が半月以上経っても透明感などが大きく変化していないことからみんなで大丈夫そうだね、と話をし全員で園庭へ。それぞれの菜の花にするかを吟味して切り採って保育室へ、、、これから自分たちで作るんだと、ワクワクした表情。たくさん菜の花を入れすぎて「うごかないよ」と話す児も。

後日、お家の方への製作としても一つ作成する。

・菜の花が種をつけている姿を見て、「またタネになったらとらなきゃ」と、種の色になるのを心待ちにしている姿があった。

・さくら組へのプレゼントとしてスノードームを渡す際には、（自分で作ったという）自信たっぷりの姿と、進級への期待が感じられた。

・担任から「今度遠足へ行くときに、野草園に持って行って、プレゼントしない？」という言葉に賛成してくれたので、お散歩遠足の時に持っていく予定である。



○すくワクプログラムを通して

3歳児すみれ組のすくワクプログラムのテーマは何にしようか、、と考えている時に、もうすぐ3歳児クラスになるみんなが、菜の花の種に興味を持っていることに注目しました。菜の花のふさの中を「まめ」と言ってる児、「たね」と言ってる児。意見が違うことはみんなで話し合っ進めていくのはどうかな、というのが始まりです。

自分たちの意見や思ったことをすぐに話してくれました。また、家庭での経験をたくさん伝えてくれます。テレビやネットで知り得たことなんかも話してくれるので、その度に「そうなんだ」「しってる」など、友達の話す言葉をすぐに「そうだね」「すごいね」など相手を認める気持ちが育っているように感じました。また、一人ひとりの発信力の強さにも驚きます。誰かが「なのはながたねになってる」「さいてる」などの言葉にすぐに集まります。そして、よりたくさん咲くにはどうしたらいいか、水をたくさんあげよう、日の当たるところはどこかな、など、自分たちが育てているという気持ちが強く現れていました。(菜園5月～10月頃に行った時よりも興味は強く現れていました、数ヶ月の成長ってすごいです)

担任自身、菜の花をテーマにして、マラカス作り、スノードーム作りに発展するという事は想定外の広がりでした。

菜の花をすくワクプログラムのテーマにして、子どもたちからの言葉を拾いながら進め、自分たちがやっている(育てている)、どうやったら育つのかな、と考えて実践してみようという主体的な姿と、みんなで意見を出し合っ進められた共同的な姿がみられたと感じる。

すみれ組のみんな！先生が思った以上に色々な言葉が進んで出てきたこと、とっても頼もしかったです。担任から、みんなにありがとう！！

保護者の皆様、お子様の活動・取り組みにご理解いただき、ご家庭でもお子様との会話の中で、色々なヒントになるような言葉をありがとうございました。



○後日談

鎌倉公園・野草園では、みんなが作ったスノードームが事務所のカウンターに飾られていたとのこと。遠足へ行った週末にさっそくお家の人に「みせたい」といって公園へ。管理所の職員から、「鎌倉保育園の子？」と尋ねられて、「うん！！」と元気に答えたという。その表情はきっと自信たっぷりだったのだろうと想像する。

飾られているかはわからなかったのですが、子どもたちからの報告でした。



※保護者から、野草園で展示してあるスノードームの写真いただきました！！